



天理市文化財だより Vol.32

なら歴史芸術文化村 開村

考古遺物修復工房のおしごと

考古遺物修復工房は
ここにあります

令和4年3月に開村する「なら歴史芸術文化村」

令和2年度発掘調査速報
黒塚古墳展示館 展示解説を多言語化
木造不動明王坐像 市指定文化財に

2022.3 天理市教育委員会 文化財課

土器の復元作業

奈良県の文化財（歴史文化資源）の保存と活用の拠点として、天理市杣之内町に令和4年（2022）年3月「なら歴史芸術文化村」が開村します。

文化財修復・展示棟では、「仏像等彫刻」「絵画・書跡等」「歴史的建造物」「考古遺物」の4つの分野の修復工房が公開されます。

天理市教育委員会文化財課は、考古遺物修復工房で、市内の遺跡の発掘調査現場から出土した考古資料（土器などの遺物）の整理作業に取り組みます。今回の紙面では遺物整理作業の様子をご紹介します。

発掘調査と遺物整理作業

発掘調査とは、過去の人間の営みによって残された遺構・遺物を掘り出して記録する作業のことをいいます。天理市内では開発事業や遺跡保護のための発掘調査が日々おこなわれており、多量の土器などの考古資料（遺物）が出土します。

こうした考古資料（遺物）を郷土の歴史を知る手がかりとして利用できるようにするための作業が「遺物整理作業」です。



洗浄作業

発掘調査現場から持ち帰った土器などの考古資料（遺物）は泥まみれです。土器の表面についた土や泥を丁寧に水もろ洗いします。資料によっては表面が脆いものもあるので、洗う際に新たな傷をつけることがないよう慎重に作業します。



持ち帰ってきた土器は泥まみれ



傷をつけないように





注記作業

洗浄・乾燥を済ませた土器の表面に、出土した遺跡・遺構・層位・日付などの情報を1点ずつ面相筆で記入（注記）します。考古資料の来歴を記録する大切な作業です。

接合・復元作業

破片を接着剤で接合し、破片が足りないとこは石膏や樹脂を充填して復元します。組み上げる際は全体のバランスを見ながら、本来の形状に復元していきます。組み上げる順序を間違えると破片がうまくはまらなくなることもあるので、慎重な作業が必要です。さらに、復元箇所に彩色を施すこともあります。

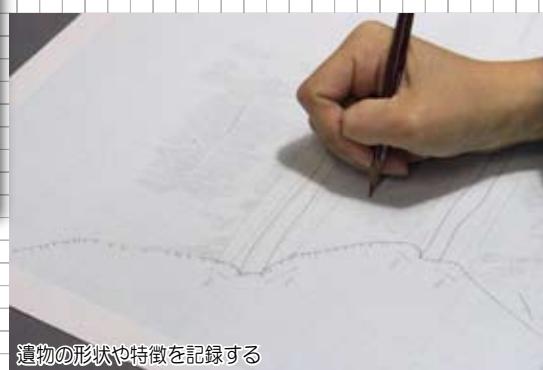


破片が足りないところを補う作業

実測作業



復元を済ませた土器などの考古資料は、大きさ・形状・作りかたの特徴などを観察・記録するために実測図を作成します。完成した実測図は発掘調査報告書に掲載され、その遺跡・遺構の時期や性格を知るうえでの大切な資料となります。



遺物の形状や特徴を記録する



てんりしまいぞうぶんかざい
天理市埋蔵文化財センター（教育委員会文化財課）

文化財に関する各種事務をおこなっています。市内の文化財に関するお問い合わせは文化財課までお寄せください。
(センターに展示施設はありません)

電話・Fax: 0743-65-5720
メール: bunkazai@city.tenri.nara.jp
※ 受付は平日8:30~17:15



天理市文化財課 

れきしげいじゅつぶんかむら ぶんかざいしゅうふく てんじとう
なら歴史芸術文化村 文化財修復・展示棟

考古遺物修復工房にて考古資料（遺物）の整理作業を公開しています。市の遺物整理作業は原則として平日に実施します。文化財展示やワークショップ等も開催予定です。
(詳しくはホームページをご確認ください)



なら歴史芸術文化村 

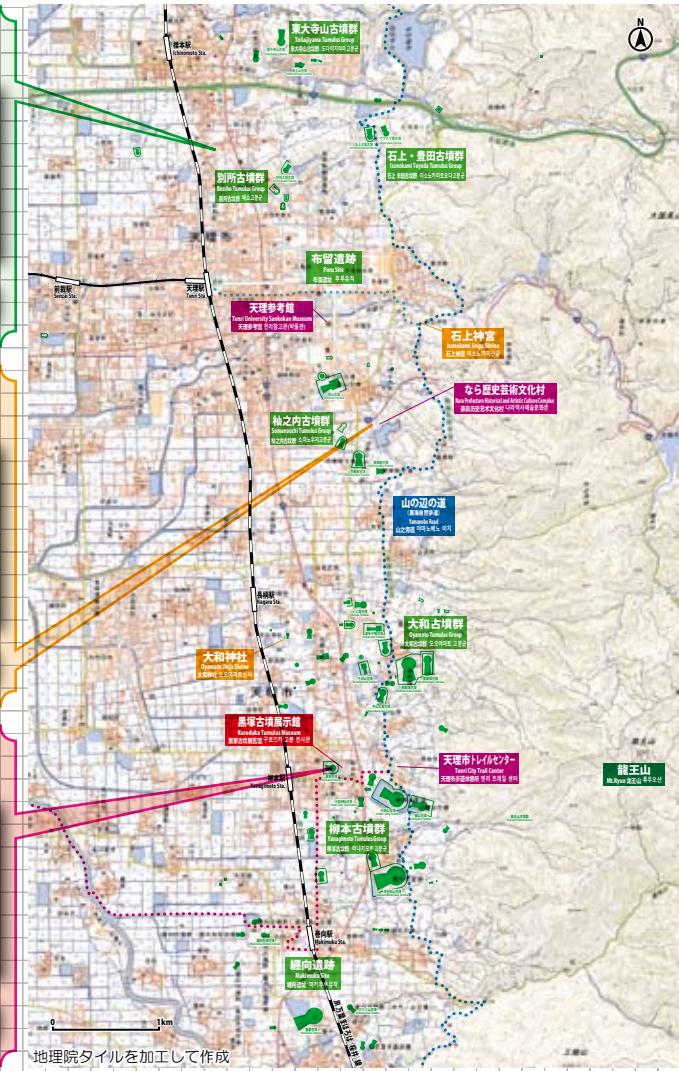
てんりしりつくろづかこふんでんじかん
天理市立黒塚古墳展示館

国指定史跡黒塚古墳のガイダンス施設。実物大の復元竪穴式石室と三角縁神獣鏡33面の複製品を展示しています。

電話: 0743-67-3210
開館時間: 9:00 ~ 17:00
休館日: 月曜日、祝日（月曜日が祝・休日の場合は次の平日も休館）、年末年始



黒塚古墳展示館 



開館20年の黒塚古墳展示館 展示解説を多言語化



平成14(2002)年に国指定史跡黒塚古墳のガイダンス施設として開館した天理市立黒塚古墳展示館は、今年で開館20年を迎えます。このたび、黒塚古墳展示館内の展示解説パネルや航空写真をリニューアルし、解説文の多言語化（英語・中国語・韓国語）を実施しました。黒塚古墳に関する解説内容を最新の調査研究成果をふまえてアップデートするとともに、黒塚古墳周辺の古墳群についても幅広くご紹介しています。すこし新しくなった黒塚古墳展示館に、ぜひお越しください。

Kuroduka Tumulus Museum
The museum has English commentary.

黒冢古坟展览馆
展览馆提供简体中文解说。

구로즈카 고분 전시관
박물관에는 한국어 해설이 있습니다。

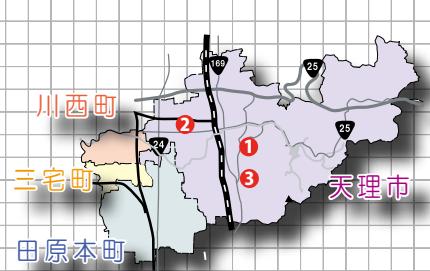


黒塚古墳展示館ウェブサイト

令和2年度発掘調査速報

天理市教育委員会文化財課は市内遺跡を対象とした発掘調査を実施しています。今回は令和2（2020）年度におこなった2件の発掘調査と、天理大学との共同調査1件をご紹介します。

- ①東乗鞍古墳第5次 ②前栽遺跡第11次 ③ヒ工塚古墳第6次



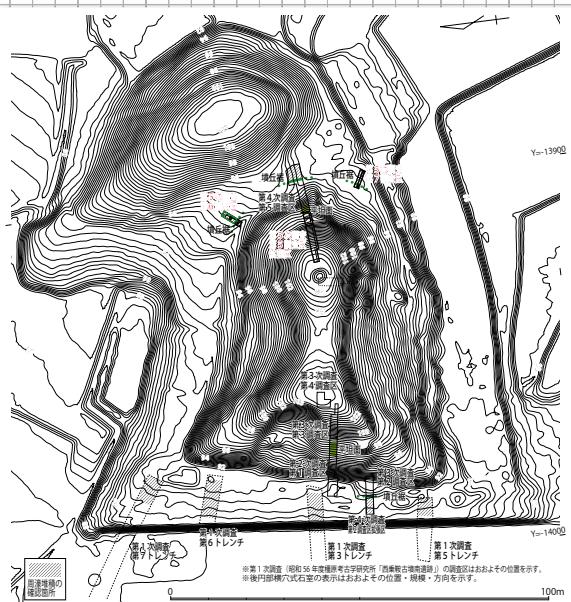
東乗鞍古墳 第5次

天理市教委・天理大学共同調査

ひがしのりくらこふん



①



Y=13900
Y=14000
100m

前栽遺跡 第11次

せんざいいせき



②

期間 令和3年3月3日～
令和3年3月26日

宅地造成に伴い、前栽遺跡の東端付近で発掘調査をおこないました。調査では、北東—南西方向に流れる自然流路跡が見つかり、その流路には古墳時代中期から奈良時代に至るまでの複数回にわたって柵が設置されました。

柵とは川の流れをせき止める古代の水利施設で、現代の水門やダムに当たります。川の中に杭を打ち並べ、横木を渡したり木の枝などを絡めて構築します。

柵のほかには祭祀土坑も確認され、中から高壇や案（小形の木製の机）とともに馬

おとぎちょう 東乗鞍古墳は乙木町に所在する前方後円墳で、古墳時代後期に築造されたものと考えられています。平成29年度から天理市教育委員会・天理大学が共同で発掘調査に取り組んでいます。今回の第5次調査では、後円部周辺の発掘調査を実施しました。

今回の発掘調査により後円部の規模や構造を復元する手がかりが得られたほか、古墳の南側が中世に大きく改変されている様子も明らかになりました。



後円部上段斜面の調査



柵の出土状況



祭祀土坑 馬の下顎骨出土状況

かがくこつ の下顎骨が出土しました。川に馬の首を投げ込む行為は雨乞い儀式としておこなわれていました。

一方、柵の中からも墨書人面土器が見つかっており、調査地付近は水利施設であるとともに祭祀の場でもあったようです。

ヒ工塚古墳 第6次

ひえづかこふん

③



期間 令和3年1月13日～
令和3年2月26日

天理市教育委員会は大和古墳群の保存のための基礎調査を継続しています。

令和2年度はヒ工塚古墳前方部南西角付近で範囲確認調査をおこない、葺石基底部の石列を確認しました。また、古墳のすぐ南側を流れる谷筋も確認しましたが、古墳南側を走る現在の里道に阻まれて、古墳と谷筋の関係（谷筋を周濠として利用していたか否か）は確認できませんでした。

石列は前方部南側面と前面を曲線でつなぐように並べられ、明確な角石はありません。また、石材は長軸 20cm 弱のものがほとんどで、墳丘基底部に置かれる葺石としては小ぶりであることが特徴です。



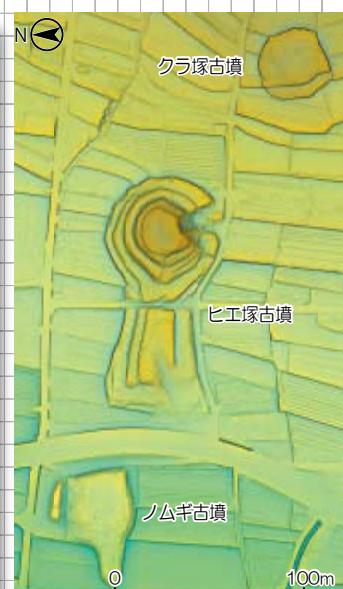
第6次調査 前方部南西角の葺石基底部



第6次調査 葺石基底部前面の木質遺物



空から見たヒ工塚古墳



ヒ工塚古墳周辺の地形

また、葺石基底部の石列と平行に並んで木質遺物が多数見つかり、中には数条の平行線が彫られたものや先端が二叉に分かれるものなどがあります。調査面積が小さく、性格等は不明ですが、何らかの祭祀行為に使われたものかも知れません。



第6次調査 南西から見たヒ工塚古墳

これまでの調査でわかったこと

ヒ工塚古墳は従来、全長 130m・後円部の直径 60m の前方後円墳で、墳丘周辺の地形から幅 30 m ほどの盾形の周濠をもつと考えられてきました。

ところが、平成 25 年度（第 2 次）と 28 年度（第 3 次）に実施した後円部裾の調査では、周濠の幅は 4～10 m と狭く、古墳の南側には周濠と別に谷筋が流れていったことが判明しました。また、両調査で確認した墳丘裾（基底石）の位置を平成 29 年度に実施した航空レーザー測量の成果と照合し、後円部の直径は 69 m となりました。



第2次調査 後円部南側の基底石



第3次調査 後円部北側の基底石

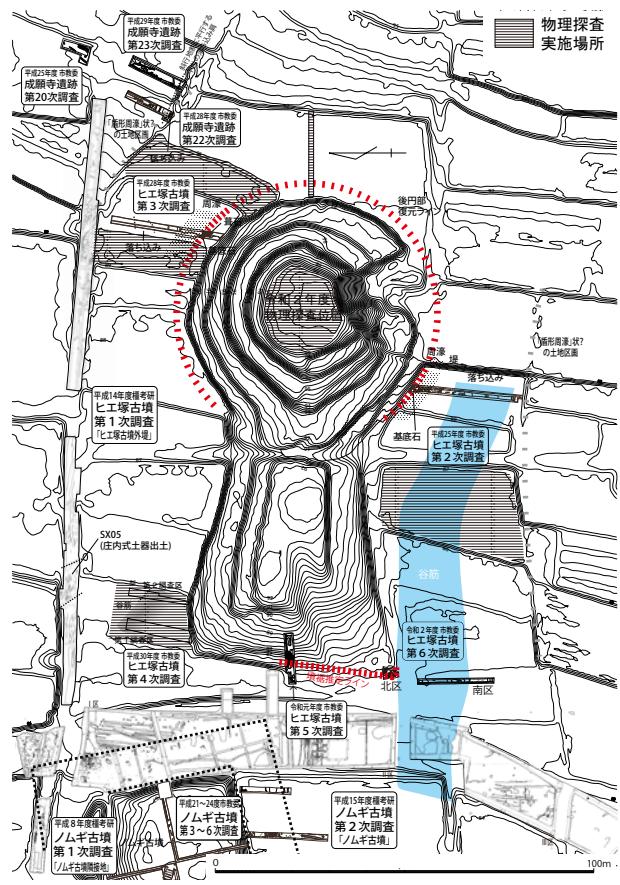


第5次調査 前方部前端の基底石

平成 30 年度の第 4 次調査では古墳にかかる遺構は確認できませんでしたが、令和元年度に前方部前面で実施した第 5 次調査で墳丘主軸付近の前方部前端を確認し、古墳の全長は 127 m となりました。

第 6 次調査で確認された前方部南西角の位置からは、前方部が従来の推定どおりバチ形に開くことがほぼ確実になった一方、前方部前端のラインは墳丘主軸に直交せず、前方部は左右対称にならないようです。前方部南西角の葺石基底部の高さは墳丘主軸付近の基底石より 1.5 m ほども低く、古墳築造時点の地形の高低差が墳形に影響したようです。

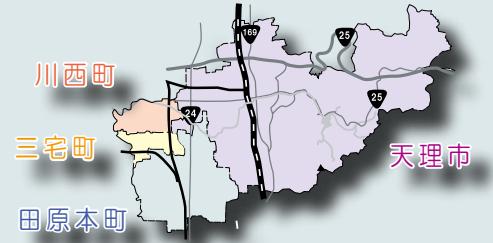
この古墳がいつ築かれたかを示す良好な手がかりは、今も得られていません。しかし、①埴輪の使用が未確認、②墳形や葺石が中山大塚古墳（古墳時代前期初頭）に類似、③盛土や葺石の間から古墳時代前期初頭以前の土器が出土などの状況から、この古墳も古墳時代前期初頭に築かれた可能性が高いとみられます。



ヒ工塚古墳の調査成果

大和まほろば 広域定住自立圏

天理市・川西町・三宅町・田原本町は文化財の保存と活用について広域連携による取り組みを推進しています。各市町の文化財の話題をお伝えします。



天理市

長岳寺 木造不動明王坐像が市指定有形文化財に

天理市柳本町の金口山長岳寺は天長元（824）年創建と伝えられる古刹です。長岳寺が所有する木造不動明王坐像が、令和4（2022）年2月22日付で天理市指定有形文化財に指定されました。

この像は針葉樹材の寄木造で、像高は84.7cmあります。作風から平安時代後期（12世紀後半）頃に制作されたものとみられます。目の周囲には後世の補修の痕跡がありますが、本来は典型的な十九觀様不動明王坐像の姿であったと考えられます。天理市域に伝来している仏像のなかでもこの時期を代表する優品といえます。



■天理市 長岳寺 木造不動明王坐像

川西町

面塚

川西町結崎には「ある日空から翁面と葱が落ちて来たので、村人が塚に埋めた」という伝承があり、その塚が面塚です。京都観世会の片山博通（第八世片山九郎右衛門）が建碑に尽力し、昭和11年（1936）に完成しました。

「面塚」の碑石は鞍馬の加茂川石、第二十四世観世左近氏の揮毫による「観世発祥之地」の碑石は丹波千代川山中の石です。

その後河川改修による移設を経て、昭和42年（1967）に現在の寺川堤防沿いに移設されました。近鉄橿原線結崎駅より徒歩17分です。春は桜が咲き、秋には紅葉が赤づきます。



■川西町 面塚

三宅町

杵築神社（伴堂）の獅子・狛犬

杵築神社（伴堂）の拝殿の前に向かい合った一対の獅子・狛犬が奉納されています。一般的に向かって右側に獅子（阿形）、左側に狛犬（吽形・頭に角）がおかれます。この像の作者は、丹波波佐吉という幕末期に大阪・大和を中心に活躍した石工で、当時の天皇より「日本一の石工」との賞賛を賜るほどの人物でした。

力強く躍動感ある表現で細部まで行き届いた繊細な彫りが特徴の像で、狛犬の台座には「大坂住 石工佐吉」及び「作師照信（花押）」の石工銘、獅子の方には「安政六年己未四月吉日」（安政六年＝1859年）の紀年銘が彫込まれています。



■三宅町 杵築神社（伴堂）の拝殿および獅子・狛犬

田原本町

県指定文化財多神社本殿の修理

田原本町南部の大字多に鎮座する多神社の本殿は、江戸時代中期の春日造社殿で、類例の少ない手法がみられる貴重な建造物です。平成10年の台風による傾斜や柱・土台の腐朽、塗装の剥落など劣化が著しく、修理が必要な状態でした。このような現状から、令和3年度から6ヶ年の予定で、解体修理をおこなうことになりました。修理は、今年3月に開村する「なら歴史芸術文化村」にて公開でおこなわれます。建造物の修復の様子を見ていただける機会は少ないので、この機会にご覧ください。



■田原本町 県指定文化財多神社本殿

『大和神社ちゃんちゃん祭り調査報告書』販売中！



奈良県指定無形民俗文化財『大和神社ちゃんちゃん祭り』の調査報告書を販売しています。天理市埋蔵文化財センター・天理市立黒塚古墳展示館でお買い求めいただけます。通信販売もご利用いただけます。1冊1,500円 残部僅少です。詳しくは天理市教育委員会文化財課 Tel: 0743-65-5720まで。

Vol.31まで発行した『天理市埋蔵文化財センターだより』は、今号から『天理市文化財だより』に変わりました。これからも埋蔵文化財のみならず、幅広い文化財の魅力を発信していきます。

発行◆天理市教育委員会文化財課

天理市埋蔵文化財センター

〒632-0017 奈良県天理市田部町441-2

Tel・Fax 0743-65-5720

印刷◆